

第1章

北海道の少子化の現状

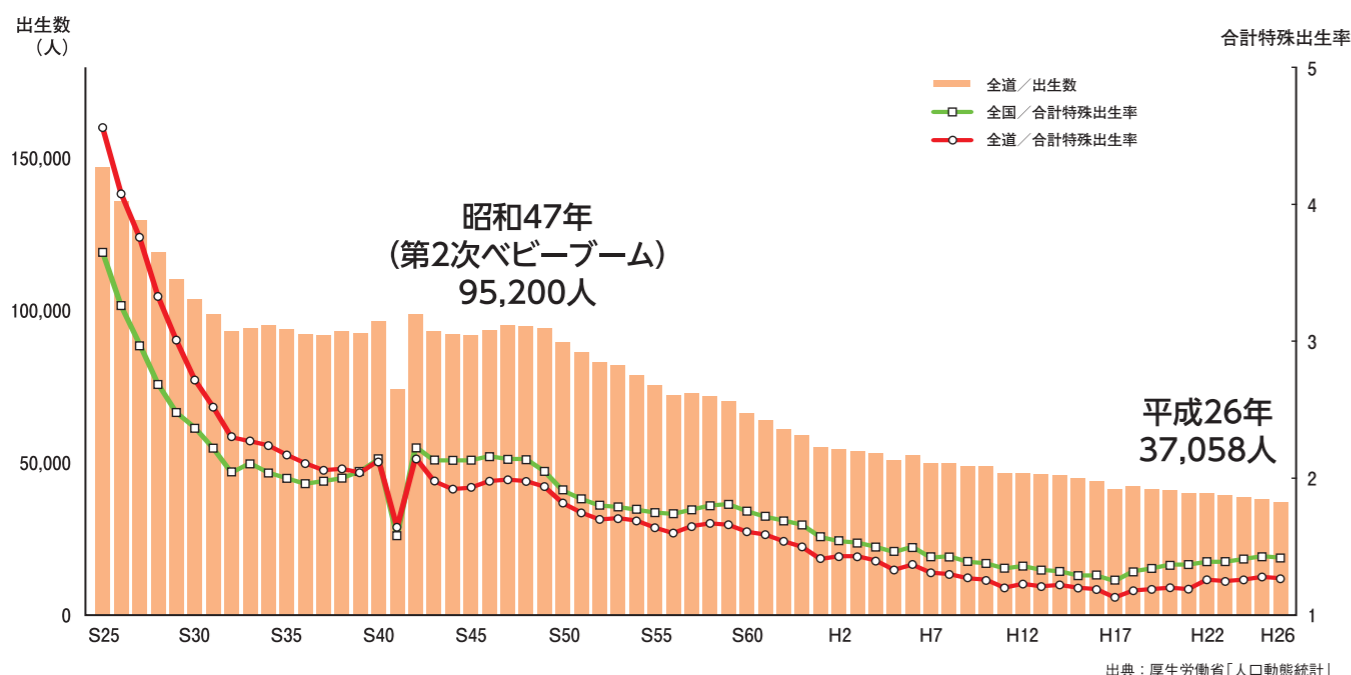
北海道では、全国を上回る速さで少子化が進んでいます。道内で1年間に生まれる赤ちゃんの数は年々減少しており、みなさんが生まれた頃に比べてもずいぶん少なくなっています。少子化がこのまま進むと、社会の色々な仕組みに深刻な影響が出てくるのが考えられます。北海道の少子化の現状や課題について理解を深め、私たちの生活にも関係する少子化問題について考えてみましょう。

1 少子化の状況

北海道では、昭和40年代後半には年間約10万人の子どもが生まれていました。しかし、その後、減少が続き、平成23年以降は4万人を切っており、昭和47年の第2次ベビーブームの頃と比べると約6割も減少しています。

一人の女性が生涯に出産する子どもの数を示す指標を「合計特殊出生率」といいますが、この値が2.07以上ないと人口が再生産されず、社会が維持できないとされています。北海道の合計特殊出生率は、平成26年では1.27(全国平均1.42)と、東京都、京都府に次いで下から3番目に低い水準となっています。

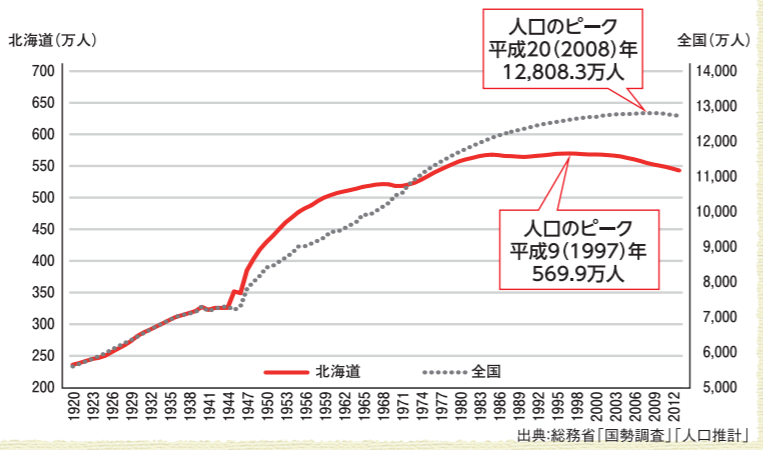
1.北海道の出生数と合計特殊出生率



北海道の人口減少の状況

北海道では、戦後から1950年代にかけて、転入増などの効果により、全国と比較しても高い人口増加率を保っていました。その後、1970年代の高度経済成長期と1980年代後半から1990年代前半のいわゆるバブル経済期を除くと、1990年代後半までは人口増加が続いていましたが、1997年の約570万人をピークに、全国より約10年早く減少に転じており、現在も全国を上回るスピードで人口減少が続いています。

2.北海道の総人口の推移

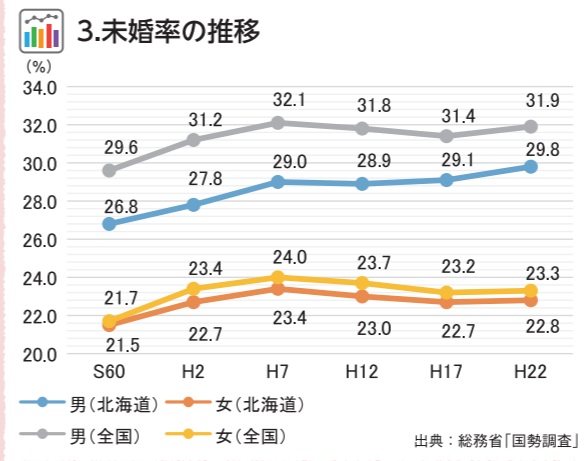


2 少子化の要因と背景

少子化は、未婚化、晩婚化のほか、北海道では全国と比較して核家族化が進んでいることや、仕事と家庭を両立できる雇用環境の整備が遅れていることなど、さまざまな要因や背景が複雑に関係して進行していると考えられています。

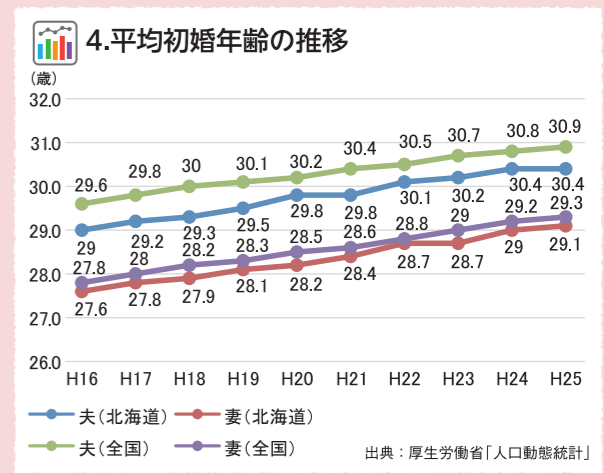
1. 未婚化

北海道の未婚率は全国に比べるとやや低くなっていますが、平成17年と比べると、平成22年では、男性で0.7ポイント、女性で0.1ポイント上昇しており、全国同様に上昇傾向となっています。



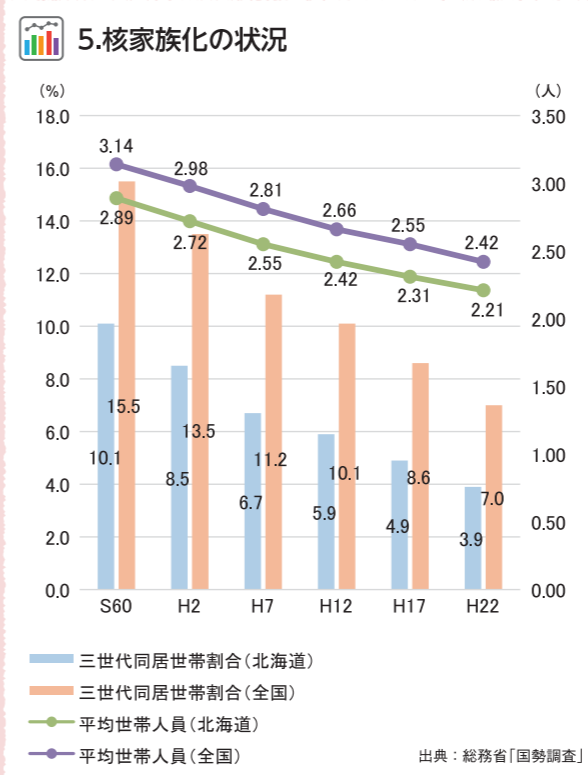
2. 晩婚化

北海道の平均初婚年齢は全国同様に上昇しています。平成17年と比べて平成25年では、男性で1.2歳、女性で1.3歳上昇しています。



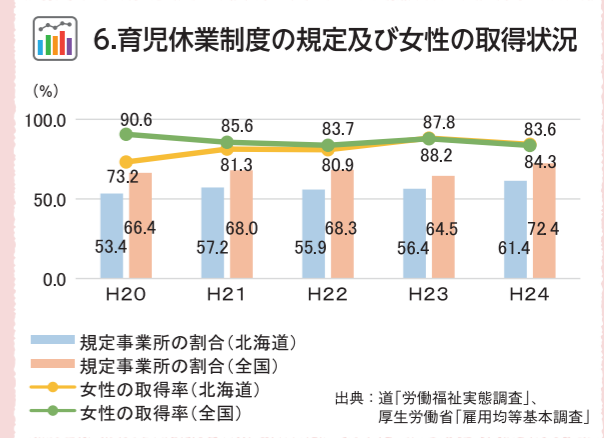
3. 核家族化

北海道は全国よりも核家族化が進行しています。三世帯同居世帯の割合や平均世帯人員数ともに減少傾向にあり、家庭内の子育て力が低下している状況にあります。



4. 育児休業制度の規定等・若年者失業率

北海道の育児休業制度を規定している事業所の割合は、増加しているものの、全国よりも低い状況です。また、若年層の雇用環境も厳しい状況となっています。



7. 完全失業率の推移

